

日本歯科保存学会 2020 年度春季学術大会（152 回）誌上開催によせて

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の災禍に遭われた、ご関係者のすべての皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、令和 2 年 6 月現在、欧米や米国では今なお新型コロナウイルス感染の渦中にあり、世界の状況は大変厳しいものとなっております。また、日本国内におきましても緊急事態宣言が解除されているとはいえ予断を許さない状況下にあります。この世界的危機に際し、日本歯科保存学会 2020 年春季学術大会（152 回）運営委員会は、かねてより大会開催の準備を進めてまいりましたが、参加される皆様および神戸市民の感染リスクを考え、現地での集会を断念し「誌上開催」とすることを決断いたしました。本学会におきまして、貴重な学術集会の機会が失われましたことを、極めて遺憾に感じております。

第 152 回学術大会では「グローバル社会における歯科保存」をメインテーマとし、学際的かつ国際的な活動を推進することを念頭に、特別講演とシンポジウム、認定研修会を軸にプログラムを構成しておりました。学会の中心的なプログラムであるシンポジウムでは、歯科保存学を構成する 3 領域の視点から臨床歯学の未来を俯瞰するプログラムを企画し、特に歯科保存学分野の将来を担う若手研究者が多く登壇するよう工夫しておりました。また、学会主導型プログラムでは「実例に学ぶこれからの産学連携のあり方」と題したシンポジウムを企画しており、基礎および臨床研究の成果が堅実に社会実装できる道筋を議論したいと考えていました。若手研究者、女性研究者さらには外国人研究者および臨床医を中心に、グローバルな視点に立って、口の健康を守る歯科保存の新たな診断・治療法の探求の場にしたと企画しておりましたが、大会を開催できないことは誠に残念です。

本誌は、本学会が始まって以来初の「誌上開催」として発刊いたします。一般演題を含めまして発表のご準備をしていただいた先生方や、参加を予定されておられた皆様におかれましては、ぜひとも充実の内容をご覧くださいまして、新しい知見にふれていただきたく存じます。そして、非常に厳しい現状をご理解いただけましたら幸いです。

最後に、このような例をみない状況での大会開催の準備にあたり、協賛および後援をいただきました企業ならびに団体の皆様、その他関係者の皆様方に厚く御礼を申し上げます。

日本歯科保存学会 2020 年度春季学術大会（152 回）大会長
大阪大学大学院歯学研究科・口腔分子感染制御学講座（歯科保存学教室）
林 美加子